

広報市民リポーターだより

6年度の「広報市民リポーター」による執筆は今回で終わります。これまで、リポーターの皆さんが独自の視点でとらえたいろいろなテーマを取材してレポートしていただきました。今回は、広報市民リポーターという仕事を通して感じたことや考えたことなどを報告していただきました。

大館の素朴な魅力

片岡 英子

大館市民になってから十六年になります。住み始めた当時は、大館ってあまり遊ぶ所もなく、少し不便な所だなあと寂しく思ったものでした。行政として何か方策を考えて、大館を盛り上げるような事をしなくてもいいのかと思っていました。もっと何かして欲しい、もっと何か作って欲しいという思いがずっとありました。

今回、市民リポーターを体験させていただき、市内の新しい建物、古い歴史的な場所、自然の中にたくさん残っている大切な植物など、これまで自分が知らなかった大館に触れることができました。大館は賑やかで派手な遊び場所などありませんが、自然が多くて静かで、歴史的に価値ある宝物がすぐ手の届くところにたくさんあることを知りました。それらはいつでも散策したり見学したりすることができると、長く住んでみると、だんだん大館のよさが分かってきます。また、リポーターの取材を通じて、いろいろ親切に應對してくれた人達、この大館に根を張り自分の生き方をしっかりと確立している人達、一生懸命物事に取り組んでいる人達を知ることができ、私にとって大きな収穫になりました。大館は、素朴だけれど魅力的

片岡英子リポーター

(下代野4区)



な街です。今後ただ漫然と毎日を過ごさずに、目を凝らしていろいろな角度から新しい大館を見つけないと思っています。

リポーターの

活動を通じて

石田 健太郎

前代リポーターの薦めで、最初はいやいや引き受けた市民リポーターですが、今こうしてやり終えてみると、けっこう楽しみながらやってこれたような気がします。私の場合は、二回のレポートのテーマを『街おこし』にしほって取材させていただきました。以前から関心を持っていたテーマでもありましたし、取材に応じてくれた人が若い人だったこともあって、本当に気楽にできたと思っています。取材を通じて、大館には情熱を

石田健太郎リポーター

(根下戸)



傾けて『街おこし』をするために頑張っている人がいることを知り、私にとってとても励みになりました。私は以前から、もっともっと活気がある大館になって欲しいと考えていましたし、そのために私も何か役に立てたらいいなと思っていました。自分の街大館を良くするために、人任せにしないで、市民みんなが協力し合うことが大切だと思います。一人では何もできませんが、同じ思いを持った人が集まって協力し合えば、ものすごく大きなエネルギーになると思っています。ぜひ私も、『街おこし』の仲間に入れて欲しいなと思う今日このごろです。

広報で私のレポートを読んでくれた友達から「読んだよ!」とひやかされました。自分が書いた文章を読まれるのは、ちょっと気恥ずかしいですね。また、広報

佐藤 実リポーター

(天神緑町)



のリポーターをやってみて、自分の考えを人に伝えることの難しさをつくづく実感しました。

交通ルールを守って

佐藤 実

交通事故を減らすためにいろいろな対策が講じられているにもかかわらず、毎日のように痛ましい交通事故の報道が後を絶ちません。昨年、交通事故についてレポートしましたが、歩行者と運転者がお互いに交通ルールを守ってさえいれば、もっと事故が少なくなるはずなんです。交通事故の最大の原因は、車のスピードの出し過ぎということですから、法定速度を守るように自重して欲しいと思います。実際、雪が消える今ごろの季節が一番スピード違反が増えるのだそうです。私が交通事故の現状につい